



人材育成

▲福島西高校デザイン科学科の生徒がカラーデザインし、運営も協力してくれた子供向けプログラミング体験（ロボットテストフィールドでのイベント）

福島の
ものづくり
×
ロボット開発の
ノウハウ



(右) 株式会社リビングロボット (伊達市) 代表取締役社長 ^{かわうち やすひろ} 川内 康裕さん
(左) アサヒ電子株式会社 (伊達市) 代表取締役社長 ^{かんの としお} 菅野 寿夫さん

インタビュー

人に寄り添うロボットの開発

県外の企業でロボット開発に携わった後に、誰もつくっていないロボットを開発したいと新たに会社を設立したリビングロボットの川内社長にインタビューしました。

最先端のロボット開発を福島県で

赤ちゃん用、教育用、高齢者の見守り用のように、人生の各段階に応じた人に寄り添うロボットをつくりたい。この開発のため、一緒に考えてくれる生産現場を探していたところ、旧知の仲のアサヒ電子の菅野社長が「一緒にやろうよ」と声を掛けてくれました。また、ロボット開発に対する福島県のサポートが非常に手厚かったので、昨年からは伊達市に本社を置きロボットを開発しています。

人とロボットが共存する社会

今年7月から福島ロボットテストフィールドに入居し、介護や道案内のロボットを開発中です。ここでは、さまざまなフィールドを活用して実証実験ができます。また、他の入居企業との交流は刺激的で勉強になります。浜通り地域で実証・開発を進め、社会で活躍するロボットのラインアップを充実させたいです。

将来は、人とロボットがパートナーとして一緒に幸せになる社会、リビングロボットの社名のように、リビングで人とロボットが共存する社会を創っていきたいです。

動くロボットに興味を持ち、みんな楽しんで学習しているの、つくって良かったです。

教育



▲教育用ロボット「あるくメカトロウィーゴ」
©小林和史/講談社



▲「あるくメカトロウィーゴ」が動く様子はこちら

世界に類を見ない拠点 福島ロボットテストフィールド

ドローンや空飛ぶクルマなど、陸・海・空のフィールドロボットの開発実証拠点として、県が南相馬市と浪江町に整備しました。

ドローン用の滑走路や災害現場を再現した施設など、ロボットの研究開発や操縦訓練ができる世界に類を見ない拠点です。

県では、本県の産業振興の拠点として、関連産業の育成、集積を図り、メイドイン福島のロボット技術や製品が生まれ出されるよう取り組んでいきます。

